

曾根沼でみられたオオクチバス当歳魚の急増現象（リバウンド現象）

佐野 聡哉・臼杵 崇弘・井戸 本純一・桑村 邦彦

1. 目的

曾根沼（21.6ha、平均水深 1.8m）では、平成 15 年度からオオクチバスおよびブルーギルの駆除と魚類相調査を行っている。平成 20 年度からはオオクチバスの繁殖抑制を最優先課題として、産卵期（3～6 月）に電気ショッカーボート（以下 EFB）による親魚の駆除とタモ網すくいによる稚魚の駆除を行っている。その結果、平成 21 年度以降は魚類相調査におけるオオクチバス当歳魚の捕獲が減少している。本年度も駆除および魚類相調査を行った。

2. 方法

オオクチバスの駆除は、EFB を 4 月に 4 日間、タモ網による稚魚すくいを 5 月初旬から 6 月初旬かけて 9 日間実施した。魚類相調査のための小型定置網は、毎月中旬に 1 統を 2 日間設置し、1 日 1 回取り上げを行った。

3. 結果

産卵期の EFB では、70 尾のオオクチバスを駆除し、うち産卵可能サイズ（標準体長 18 cm 以上）の個体は 51 尾であった（図 1）。

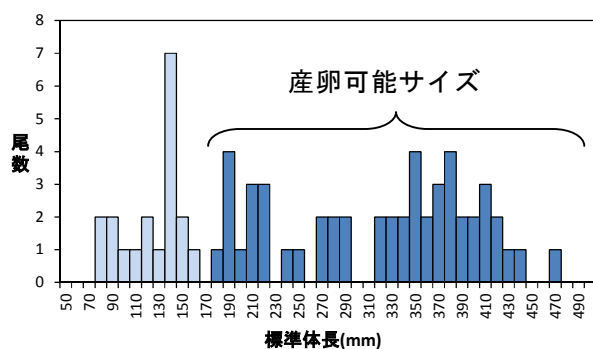


図1 産卵期のEFBで駆除したオオクチバスの標準体長

産卵可能サイズの個体の EFB による CPUE（尾/時間）は低下傾向にあり、オオクチバス親魚が減少傾向にあることが示された（図 2）。また、稚魚すくいの CPUE（尾/周回）も低下傾向にあり、親魚の減少に伴って全体の産卵

量や稚魚数も減少傾向にあるものと考えられた。

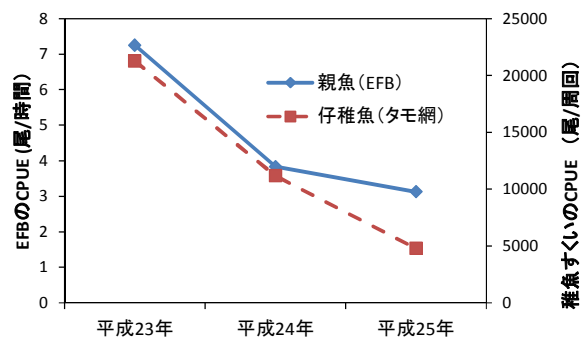


図2 EFBおよび稚魚すくいのCPUE

小型定置網による魚類相調査では、捕獲される在来魚および在来エビ類の尾数が増加し、在来魚介類の回復傾向が示されたが（表 1）、オオクチバスの当歳魚の捕獲尾数は昨年度 13 尾の 37 倍の 481 尾と急増した（図 3）。

表1 魚類相調査（2 日間/月、4 月～12 月）で捕獲された在来魚およびエビ類の尾数

		平成23年	平成24年	平成25年
在来魚	尾数	214	869	1090
	種数	11	15	19
在来エビ類	尾数	70	904	1038

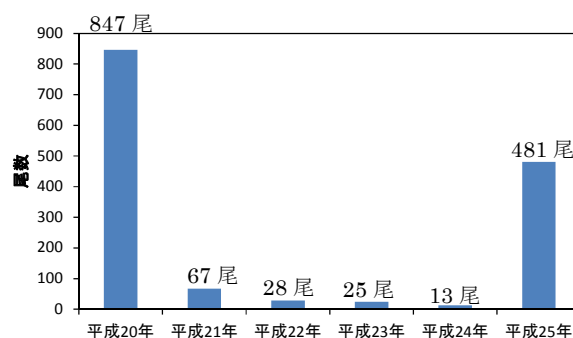


図3 魚類相調査で捕獲されたオオクチバス当歳魚の尾数

今後は、親魚の減少にも関わらず、オオクチバスの当歳魚が急増した原因を明らかにし、防止策を検討する必要がある。

本報告は水産庁による平成 25 年度外来魚抑制管理技術高度化事業の成果の一部である。